

報告



第44回 北海道支部定期総会報告

(社)日本技術士会北海道支部 事務局次長
技術士（建設／総合技術監理部門） 森 隆 広

隆 広

1 はじめに

日本技術士会北海道支部の第44回定期総会が2009年4月28日(火)ホテル札幌ガーデンパレスで開催されました。総会の配付資料（議案内容等）については、118号後ろの定期総会報告に掲載しておりますので、ここでは主に総会審議の概要と講演会および懇親会の会場の様子を中心に報告します。

2 総会

(1) 出席状況

- ・支部会員 186名
- ・協賛会員 83名
- ・委任状 365名

会場出席者は、合計269名



写真-1 会場の様子（その1）



写真-3 右より大島支部長、斉藤副支部長、能登副支部長

(2) 第1号議案、第2号議案の審議

第1号議案である平成20年度事業報告および決算報告、第2号議案である平成21年度事業計画および予算案については、数人から質問や意見がありましたが、支部長、副支部長、事務局からの説明や意



写真-2 開催挨拶をする大島支部長



写真-4 質疑応答の様子（その1）

見交換の後、賛成多数で無事承認されました。審議における主な内容は以下の通りです。

一般会計と特別会計に分けていることについては、一般会計は会費を運用しているものであり、特別会計は国からの委託を受けて国家試験を

代行していることから、本部の会計と同じ形式で分けていることをご説明し了解を頂きました。

主に技術士全国大会開催への準備金としている特別事業積立金の一部を平成21年度に支部会員のデータベース等のシステム更新に支出することに関しては、このシステム更新も特別事業の一環としてとらえており、支部役員会での審議で了承を得ているものであるとの説明でご理解頂きました。

予備費はもう少し少なくても良いのではないかと
言う意見については、会費の入金にタイムラグがあること等を説明し了解を頂きました。

第2号議案にある倫理研究会の計画における言葉の使い方（啓蒙と啓発）についてもアドバイスを頂きました。

PEの4月号にアンケート結果が掲載されており、技術士会への主要望提言で「第二次試験合格者は技術士会に全員入会する方式に変更して、年会費の低減を図る」とあることから、全員入会方式で



写真-5 質疑応答の様子
(その2)



写真-7 質疑応答の様子(その4)

会費1万円にすべきであり、それを支部より技術士会へのイノベーションとして起こして欲しいとの激励も頂きました。

(3) 第3号議案の審議

第3号議案である役員を選出を行いました。

最初に支部規則第9条に従って支部長の選出を行いました。会場から事務局案提示のご要望がありましたので、事務局案として齊藤副支部長を支部長に推す案を提示し、満場一致で可決しました。これより、平成21年度からは齊藤新支部長の下で北海道支部が動き出すことになりました。

続いて支部規則第10条および支部規則内規に従って、齊藤支部長が指名する副支部長、会計監事、幹事、事務局長の役員名簿案が配布され、会員の大多数の承認を得て承認されました。また、支部内規に従い、同様に大谷事務局長の指名する事務局次長案も承認されました。加えて、支部内規により齊藤支部長から大島前支部長を顧問に委嘱する案についても同じく承認され、平成21年度～22年度の支部役員体制が決定しました。

なお、平成21年度～22年度の北海道支部の新体制と役員名簿については、この118号に掲載されている役員名簿をご覧ください。

(4) 報告事項

事務局より平成21年度(社)日本技術士会会長表彰の推薦について報告がありました。総務委員会で選考され、支部役員会で了承されたことから、北海道支部からは伊藤昌勝顧問と能登繁幸副支部長のお二人を推薦することになりました。

(5) その他

総会の議事が全て終了した後、大島前支部長が退



写真-6 質疑応答の様子(その3)

任の挨拶を簡単に行いました。次に齊藤新支部長が挨拶され、続いて齊藤新支部長より平成21年～22年度の役員の方々の紹介があり、総会は終了しました。



写真-8 新役員を紹介する齊藤新支部長



写真-9 会場の様子(その2)

3 講演会

今回は VICS (国際流通化機構)・元総務省戦略研究会委員の舟本秀男氏をお招きし、「北海道グリーン・ニューディール」と題して、ご講演を頂きました。

講師である舟本氏は平成18年より「財界さっば



写真-10 講演する舟本社長

ろ」代表取締役社長に就任しており、一般的にはこの肩書きの方が分かりやすいのではないのでしょうか。以下、舟本社長と称して記していきます。

(1) ウォルマートのサステナビリティ戦略

舟本社長の話の切り出しは、米国流通業界の巨人であり、世界最大のスーパーマーケット・チェーンであるウォルマートの話から始まりました。売上高が41兆円にも達するウォルマート本部の建物が予想を裏切って質素であり、使っているテーブルなども使い古して傷だらけであったという話でした。

創始者サム・ウォルトンが残した10のルールを紹介して頂きましたが、その中で、「成功したら大いに祝福し、失敗してもユーモアを」というルールはいかにも米国的な感じがしました。日本では難しいでしょう。

ウォルマートの「サステナビリティ360」で示されているゴールが「100%再生可能エネルギーの供給、廃棄物をゼロに、資源と環境を持続させる商品の販売」となっており、冗談ではなく真剣に取り組んでいるという話でした。

(2) 低炭素社会と北海道の可能性

京都議定書、京都メカニズム、クリーンテック革命など環境社会検定試験 (ECO 検定) に出てきそうなキーワードの説明を加えながら、低炭素社会に貢献できる北海道の可能性について話をされました。

その中でオロロン街道沿いに大規模ウィンドファームを整備すべきだという提案をされていました。

また、消費者の環境志向の現れとして最近よく見かけるようになった「LOHAS: ロハス」という言葉を「Lifestyle Of Hokkaido And Sapporo」ともじって環境ビジネスにおける北海道の可能性を語っていました。

そして、この北海道の可能性を「風、林、水、菜」と表現して提唱していました。

(3) 風林水菜

急激な気候変動などの環境問題に対して北海道はもっと優位性を発揮すべきであるとして、次のような施策を提案し、それらを表すキーワードとして「風、林、水、菜」が大事であると講演を締めくくり

ました。

- ・熱波、海面上昇、酸性雨、黄砂、水不足、花粉症
- ・農作物の拡大で日本の食糧基地に
- ・林業の振興で環境維持（CO₂の削減に寄与）
- ・再生可能エネルギーの振興で電力の安定供給
- ・環境産業の誘致（ソーラー、ハイブリッド・EV…）
- ・世界があこがれる観光の地
- ・日本各地の人があこがれる移住・長期滞在の地

（船本社長の講演スライドから引用）

（4）講演会に使用したスライド資料

舟本社長のご厚意により今回の講演で使用したスライドの PDF ファイルを頂いております。平成 21 年 9 月末までの期間、北海道支部ホームページの「会員のページ」にてダウンロードできますので、ご希望の方は下記 URL をご覧下さい。

但し、アクセスするには北海道支部の会員 ID とパスワードが必要です。

URL：<http://www.ipej-hokkaido.jp/>

4 懇親会

（1）出席状況

予定より少し遅れて 18：00 より会場を隣の部屋に移して懇親会が開催されました。懇親会には会員 141 名の出席があり、会場は会員でほぼびっしりとなりました。



写真-11 懇親会会場（開宴前）の様子

（2）懇親会の状況

熱気あふれる中、齊藤新支部長の挨拶の後、3 期 6 年に亘る支部長就任期間を振り返り、大島顧問（前支部長）が改めて退任に当たっての挨拶を行いました。

続いて、新たに副支部長に就いた中野淑文技術士、大島俊之技術士のお二人から今後の抱負を含めて挨拶されました。

そして、ジョークを交えながら、能登副支部長の乾杯の音頭で開宴となり、懇親会がスタートしました。



写真-12 中野副支部長（左）大島副支部長（右）

懇親会では各テーブル席での歓談に止まらず、色々なところで挨拶と名刺交換や情報交換が行われ、また、昨年からの百年に一度と言われる経済危機の話や最近の道内に関しての話が飛び交い、大変賑やかな時間が過ぎていきました。

皆さんの笑顔と歓談が尽きず名残惜しい中、最後に大谷事務局長が演台に上がり、挨拶の中で平成 21 年度の日本技術士会役員選挙について触れ、北海道支部会員として既に公認立候補となっている能登副支部長への応援をお願いし、一本締めで会を締めくくり、懇親会はお開きとなりました。

5 おわりに

早ければ平成 21 年度から(株)日本技術士会が公益財団法人としてスタートすることになります。そうになると、連動して北海道支部においても公益性のある活動と成果が求められることになります。新たな責務や改善課題が出てくるかも知れません。

最後になりましたが、支部活動が今以上に活発になることによって魅力が増して支部会員が増え、そのことによって更に魅力が増して支部会員が増える、という正のスパイラルとなるよう、今後も会員皆様のご協力をお願いいたします。